

- | | | |
|---|-----------|-------------------------------------|
| 1 | 審議会名 | 上田市通信制単位制高等学校評議委員会 |
| 2 | 日 時 | 平成27年2月6日 午後2時00分から午後4時00分まで |
| 3 | 会 場 | さくら国際高等学校 コミュニティースペース |
| 4 | 出席者 | 野原会長、大口副会長、北沢委員、坂口委員、山内委員、山極委員 |
| 5 | 学校出席者 | 荒井学園長、森校長、高橋副校長 |
| 6 | 市側出席者 | 小山教育長、西入教育次長、齋藤教育総務課長、中村総務企画係長、横沢主査 |
| 7 | 会議概要作成年月日 | 平成27年2月12日 |

協 議 事 項 等

- | | |
|---|---------------|
| 1 | 開会（教育次長） |
| 2 | 人事通知書の交付 |
| 3 | 新任委員の紹介（自己紹介） |
| 4 | 教育長あいさつ |
| 5 | 学園長あいさつ |
| 6 | 議事（質疑応答及び意見） |

- (1) 学校の概要について
質疑及び意見なし

- (2) さくら国際高等学校の設置者変更認可について（諮問）

副会長 さくら国際高等学校が学校法人立学校に移行することは、非常に喜ばしいことである。開校当時、株式会社立学校に対する理解はなかなか進まなかったが、学校法人化により学校に対する地域の評価は一層高まると期待する。

学校法人立学校には、経常経費への補助や授業料等軽減事業への補助があるとの説明であったが、授業料等軽減事業への補助について具体的に教示願いたい。また、その他にも助成があれば説明をお願いしたい。

学 校 学校法人立学校への移行を希望した理由は、現在の運営環境に不満があったからではなく、教育内容の更なる充実を切望したからである。確かに、助成が充実することも理由の一つではあるが、助成の具体的な金額は現時点では不明であり、来年度に助成が受けられる道筋がついたということである。また、今後検討している校舎の耐震化について、助成制度があると認識している。

また、教職員の福利厚生について、日本私立学校振興・共済事業団が管掌する私学共済制度に加入することができるようになり、経営の安定化に資するものと考えている。

副会長 中校舎の耐震改修は、開校当初から懸念していた事項であり、助成を活用し必要な整備を進められることを期待するとともに、上田市からの助成についても前向きに検討してほしい。あわせて、昨今の事例から、地域が最も心配している防火対策についても検討をお願いしたい。

委 員 経営の安定化の面から考えると、助成が受けられる一方で、教職員数を3倍近く増やす必要があることから、疑問を感じる部分もある。

学 校 教職員数の増加にともない人件費の負担が増えるという指摘であるが、面接指導施設における教職員の人件費をすべて負担するわけではなく、指導のために出向する教職員の人件費の一部を負担するということである。

委 員 単純に人件費が3倍になるということではないのか。

学 校 通信制課程では添削指導、面接指導及び試験に教職員が関わるが、とりわけ面接指導については、生徒がメディアを利用して学習した場合などには、一部を免除することができる。したがって、生徒が毎日通学してくる全日制と比較すると、教職員が指導に関わる時間数も少なく、指導時間数に応じて報酬を支払うことから負担は少ない。

副会長 生徒数が年々増加しているが、少子化を迎え、10年先には生徒数の減少が予測される中、今後の経営戦略をどう考えているのか。

学園長 少子化により生徒数はピーク時の3分の2になっているといわれている。その中で、さくら国際高等学校が受け入れている不登校や発達障害の子どもたちは、国を中心にさまざまな対応を行っているが、微増している状況にある。本来であれば本学校は存在しないのが望ましいところであるが、発達障害がある子どもたちは約6%であると発表されており、実際にはもっと多いのではないかとされている状況の中では、必要な措置を講じながら受け入れていきたいと考えている。特段の事情を抱えていない子どもたちについても、学校の理念に共鳴し、入学を希望する生徒が増えてきている。今後も、子どもたちの希望や実態に沿って柔軟に教育活動を展開することで、学校経営は持続できるものと考えている。

委員 授業料の軽減については、さくら国際高等学校への入学を希望する生徒が多い状況を踏まえ、誰でも入学できる状況、または、お金がないと入学できない状況にならないよう検討をお願いしたい。助成額も期待するほど多額ではないと理解している。

学校の概要についての質問になるが、本校入学者における発達障害の状況について再度説明をお願いしたい。

学校 学園長から説明があったが、発達障害の子どもとの割合は一般的に約6%といわれているが、実際にはもっと多いものと感じている。以前に比べ、医療機関への相談も増えてきているが、発達障害の見極めは難しいのが現状である。加えて、ニートが65～70万人と推計され、高校卒業資格が取得の有無で、自らが希望する進路を選択できるかできないかにつながっていく状況において、さくら国際高等学校は高校卒業資格が取得できるよう支援している。

このことを踏まえての説明になるが、開校から昨年12月1日までの本校入学者数464人のうち、発達障害などの診断がある生徒が67人 全体の14%であり、心の病と診断された生徒が63人 全体の14%である。一方で、診断はないが、入学前の面談や入学後の状況から支援が必要と考えられる生徒が91人と判断している。この判断は非常に難しいが、要支援と決めつけるのではなく、指導の上で支援が必要であると考えているということである。

委員 事情を抱える生徒をはじめとする多くの生徒への教育支援を行い、社会的自立に導いていることはすばらしいことである。一方で、卒業したが、次の進路につながらなかった生徒もいることから、可能であれば卒業後の状況について是非検証をお願いしたい。

委員 長男が在学していた時には、授業料等の支援制度がなかったが、三男の在学中にはすべての生徒を対象に授業料軽減措置が設けられたことから負担が少なくなった。さくら国際高等学校への入学を希望したが、授業料のために入学を断念したケースもあると聞いているので、学校法人化によって更に授業料が軽減されることになれば、生徒の選択肢も増えると思う。

事務局 さくら国際高等学校が学校法人立学校へ移行することについて、本日欠席されている委員からは特段の異論がなかったことを報告する。

会長 すべての委員から意見を伺った。これら意見を踏まえ、さくら国際高等学校の設置者変更認可について、答申案どおり認可を承認することとしてよろしいか。

全委員 (拍手)

会長 それでは、本委員会はさくら国際高等学校の設置者変更認可について承認するものとする。

(3) 学校評価(案)について

副会長 中学校の学校支援に参画する中で感じることだが、生徒の学力差があり、大学においても同じ事象が存在する。評価に記載されている「学び直し」が、生徒の学力差にどのような効果を与えているのか。

学校 生徒の学力差に対して、入学前に指導を行い、最低限必要な学力を身に付けさせるよう努めている。指導の結果、やむをえず卒業することが困難と判断した場合には、その状況を率直に伝えている。

不登校を経験して入学してきた生徒の多くが、人間関係に相当疲れてしまっている。この悩みを解決できれば、純粹に学習に向かうことができ、これをきっかけに学習の楽しさを覚え、学力向上につながっていく。特に、この学校で人間関係に悩むことがないよう、互いに人格を尊重して学び、切磋琢磨できることを基本とし、学習を通して新たな発見ができるよう努めている。

学 校 補足説明になるが、入学段階では、国語については簡単な文章を読んで理解できるのか、漢字の読み書きができるのか、文章を書けるのかを重点的に確認している。数学については、四則演算ができていれば、中学の数学を教えることができる。長く不登校であった生徒は、中学校における学習を理解していないため、そこから徹底的に指導する。中学校の学習を理解できる生徒は、必ず高校の学習内容を理解できると考えている。特に数学については、試験を行い、理解と定着の度合いを確認している。英語については、英単語を覚えることができるのか、文法が理解できるのかを確認している。したがって、学力差が相当あるということではなく、必要な学力を習得させた上で、高校の学習につなげていくということである。

学園長 生徒の中には、英語や理科などの一教科にすばらしい能力を持っている生徒もあり、その能力を伸ばして、社会参加につなげることも非常に大事にして指導に取り組んでいる。

副会長 入学した時には暗い顔をしていた生徒が3か月でその表情が変わってくるのをみると、学校の指導が自己肯定感の向上につながっていると考え。評価に値することであり、これまでの経験を踏まえ更に取組を進められることを期待する。

委 員 本学校を卒業した長男は、中学校の時に人間関係での悩みがあったが、本学校に入学してからは悩むことがなくなり、安心して登校することができるようになった。表情が明るくなり、学習にも楽しく取り組むことができ、学力が大きく向上した。丁寧な指導に感謝している。

委 員 不登校やいじめを経験してきた生徒たちが、この学校で指導を受け、成長しようと考えている中で、指導において特に留意していることは何か。

学 校 新年の最初の登校日に書き初めを行った。生徒の作品を廊下に掲示しており、ご覧いただくとわかるが、字が誤っているものや曲がっているものがある。それは、間違ってしまったものなのか、字がうまくかけなかったのか、又は生徒の思いが込められているのか、さまざまであると思う。誤りであった場合には、教職員が誤りとして指摘するのではなく、生徒自らが誤りであったと気づくよう指導している。本学校の教職員は、生徒たちの長所を見極め、それを更に伸ばしていくことに長けていると思う。

学園長 純粹でまじめな生徒が集まっている学校であっても、力関係は必ず生じ、特に思春期でもあるので、喧嘩まで発展しないにしても小競り合いのようなことは必ず起きる。学校現場であるので当然のことであるが、いじめになる前にどうやってその芽を摘むか、教職員全員が生徒の様子等を常に把握できるよう心掛けている。万が一いじめが起こってしまった場合には、いじめをすることがいかに自分にとってマイナスであるのか、もしくは恥ずかしいことであるのかについて徹底して指導することになっている。さまざまな事情を抱えた生徒たちであるので、対応の仕方も千差万別であり、生徒の個性を把握した上で対応することを基本としている。これまでいじめが起きていないことは喜ばしいが、起きたときには、生徒、保護者、社会一般に対して、学校にとって大変大きなマイナスであっても必ず公表し、その上で適切な対応をすることが本学校の基本的姿勢である。

委 員 地域活動の夏祭りにおける生徒の皆さんとの交流や卒業式における発表を聞いて、学校評価の内容が的を射た妥当な評価であると考え。これまで実施してきた教育活動を継続されることを期待する。

副会長 授業参観の出席率はどうか。これまで2回ほど授業参観に出席したが、生徒たちは私語や居眠りもなく授業に取り組んでいた。以前は地域にも授業参観の案内があったので、今後実施してほしいと思う。その理由として、生徒たちが真剣に取り組んでいる姿を中学生に是非見学させたいと考えている。

学 校 生徒たちが参観してほしいこともあり、保護者の参観はわずかである。

委 員 以前に授業参観に出席したことがあるが、参観者の少なさに驚いた。生徒たちの様子を見ることができる貴重な機会であるので、多くの保護者の参観と今後の継続を期待する。

副会長 最後に、教職員数が38人(平成25年5月)から57人(平成26年5月)に増加しているが、経営面で特段の問題はないのか。

学 校 校舎の耐震化を除いて、施設設備の整備は進んできているので、教職員の増員による運営上の支障はないもと考えている。

会 長 他に質問及び意見がなければ、各委員からの提言を踏まえ、事務局において評価書のとりま

とめをお願いする。

以上で予定していた議事がすべて終了したので、事務局からその他として何かあればお願いしたい。

7 その他

さくら国際高等学校の設置者変更認可について（答申）

8 閉会（教育次長）